

ゆたか倶楽部 よもやま話

vol. 29

平成4年12月、MOPAS(商船三井客船)営業トップの洪澤部長から相談を受けました。平成5年3月6日出港の新さくら丸グアム・サイパンクルーズの

チャーター元である北海道生産本部が集めているが、80名様より伸びないのでゆたか倶楽部へ集客の協力を要請されました。旅行申込締切日は2月20日、残り60日しかありません。日頃MOPASにはお世話になっていますが、私が以前に勤めていた旅行会社の札幌支店長の時、北海道生産本部には毎回ご協力をいただきましたので今回は私ができる限り協力することを約束しました。そうは言っても、旅行申込締切日まで年末年始含めて60日、時間との戦いです。急いでクルーズ全般の内容のアレンジ、船内運営、現地観光など2日間熟考しました。当時はバブルもはじけ客船を使った研修旅行、都道府県の船、政府主体の船などは中止になったり、



チャーター日数が減ったりしているときでしたので、長期的に考えた方がよいと思い、そこで新さくら丸をベースに良い悪いを一覧表に書いてみました。

良い点は①食事が美味しい②乗組員のサービスの良さ③船内の整理整頓、綺麗な清掃④研修船として6カ所の教室がある。悪い点は姉妹船ふじ丸につぼん丸と比べて船室がかなり劣る。特に4〜6名の二段ベッドでシャワー、トイレが付いて無い部屋がほとんどでしたからこの点が一番心配しました。老人クラブ会員とゆたか倶楽部の会員を対象に船内の研修(カルチャー教室)に力を入れ、ダンス・唱歌・水墨画・俳句・書道・男の料理教室など12講座。一時限を1時間15分とし、一日3時限で1時限に4講座を設定、自分の好きな講座に自由に参加、気に入ったら帰国後、地元のカルチャー教室に通い、趣味を広げていただくお手伝いという位置づけで進めました。

海外クルーズは観光代も旅行代金に含め1泊あたり1万5000円に設定し、研修・観光・交流(ふれあい)三本

の柱をタイトルに「ふれあいの船」が誕生しました。時間がなかったので親しくして頂いていた埼玉、栃木、茨城、静岡各県老人クラブ連合会への企画書と協賛依頼を暮れのぎりぎりに提出、1月10日迄に許可をいただきました。募集チラシを作り、各県の説明会やDMをしたところ1月下旬栃木県高根沢町老人クラブ連合会々長出口徳司さんから5名の申込みがありました。(このグループは毎回お申し込みをいただき第3回の上海・蘇州では32名様に参加いただきました)。その後、毎日のように申し込みが続き、2月20日の旅行申込締切日迄に老人クラブ150名、ゆたか倶楽部会員40名になりました。

戦時中に軍隊で今回の寄港地にいた方も多勢おりましたので慰霊祭には力を入れました。船上の慰霊祭はMOPASの仕様で取り行い、南洋に限らず太平洋戦争全体の戦没者慰霊祭とし、申告していただき、故人名と戦没地を読み上げ、お酒・お花・タバコ・水などを海上へ捧げ、故人のご冥福と平和のありがたさに感謝しました。グアム・サイパン両島でも慰霊祭を実施、お客様の中にはこれで私の戦争は終わったと話す方もおりました。

下船後のアンケートをお願いしたところ④交流(ふれあい)が良かった⑤カルチャー教室が豊富で選ぶのに困った

⑥慰霊祭がよかった⑦船の料理が美味しかった⑧毎日のベッドメイキングと清掃が気持ち良かった⑨グアム2日間・サイパン1日の観光代と昼食も旅行代金に含まれてこの内容で1泊一万円代は安いと思った、などで船の施設に關しての苦情は全くありませんでした。更に⑩次回も参加しますかという問いには70名様から嬉しい回答を得ました。

これで次回からは単独でやっていく自信もつき、更に内容も充実し平成6年3月は台湾に決め、関東1都8県の老人クラブ連合会の協賛をいただきイベント司会は弊社の会員でもある春日三球さんに毎回お願いし、出航日の結団式には参加者の名簿を配り、クルーズ終了一カ月後船内新聞、メニュー表、乗組員・講師・お客様の感想文を一冊の記念誌として配布しました。プライバシーの保護が厳しくなり第7回の平成9年3月の香港・厦門を最後に発行をとり止めました。

上海・蘇州・青島・大連旅順は2回、香港、厦門、香港返還など海外7回、日本一周、宮古・石垣・奄美大島、10回目は日本縦断1万キロ19日間は平成11年7月、同年11月新さくら丸は売船されました。このように「ふれあいの船」は7年間に10回実施し、延べ約25000名の方に参加いただき、日本のクルーズ振興への一翼を担ったという思いがあります。